



2020年3月期 第1四半期

ジャパンエレベーターサービスホールディングス株式会社

(東証一部：6544)



2019年8月7日

1

2020年3月期 第1四半期決算概要

2

2020年3月期 通期業績予想



2020年3月期 第1四半期決算概要

2020年3月期第1四半期決算概要(業績)

(百万円)

	2019年3月期 1Q		2020年3月期 1Q		前期比 (%)
	実績	売上比 (%)	実績	売上比 (%)	
売上高	4,029	100.0	4,847	100.0	120.3
原価	2,614	64.9	3,064	63.2	117.2
売上総利益	1,414	35.1	1,782	36.8	126.0
販管費	1,069	26.5	1,270	26.2	118.8
営業利益	345	8.6	512	10.6	148.4
営業外収益	4	0.1	6	0.1	141.9
営業外費用	9	0.2	11	0.2	117.3
経常利益	340	8.4	507	10.5	149.2
特別利益	4	0.1	0	0.0	1.7
特別損失	0	0.0	0	0.0	108.5
税金等調整前四半期純利益	344	8.5	507	10.5	147.5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	201	5.0	293	6.1	145.9

2020年3月期第1四半期決算概要(売上種類別)

5

(百万円)

	2019年3月期 1Q		2020年3月期 1Q		前期比 (%)
	金額	構成比 (%)	実績	構成比 (%)	
保 守 ・ 保 全 業 務	3,221	79.9	3,579	73.8	111.1
リ ニ ュ ー ア ル 業 務	799	19.8	1,100	22.7	137.6
そ の 他	8	0.2	168	3.5	1,963.6
合 計	4,029	100.0	4,847	100.0	120.3



2020年3月期 業績予想

2020年3月期連結業績予想

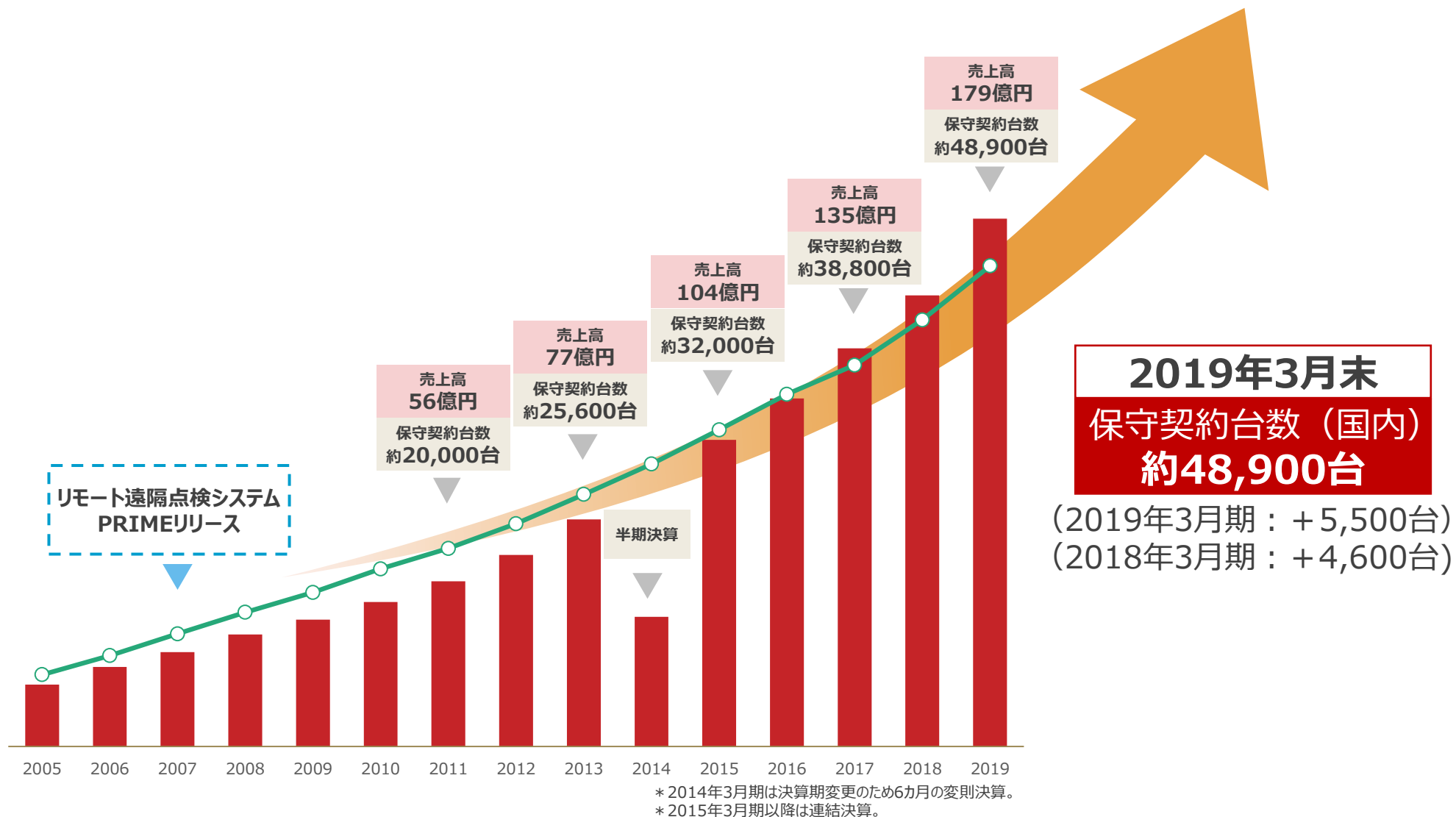
単位：百万円，%	上期			下期			通期		
	2019/3期	2020/3期予想		2019/3期	2020/3期予想		2019/3期	2020/3期予想	
	金額	金額	前年同期比	金額	金額	前年同期比	金額	金額	前期比
売上高	8,200	9,600	117.1	9,700	10,400	107.2	17,900	20,000	111.7
営業利益	772	950	123.0	1,262	1,350	107.0	2,034	2,300	113.1
経常利益	747	950	127.2	1,254	1,350	107.7	2,001	2,300	114.9
親会社株式に帰属する 当期純利益	450	530	117.5	815	820	100.7	1,265	1,350	106.7
	売上比	売上比		売上比	売上比		売上比	売上比	
売上総利益率	35.6	36.0		36.7	36.7		36.2	36.3	
販売管理費率	26.1	26.1		23.7	23.7		24.8	24.8	
営業利益率	9.4	9.9		13.0	13.0		11.4	11.5	
経常利益率	9.1	9.9		12.9	13.0		11.2	11.5	
当期純利益率	5.5	5.5		8.4	7.9		7.1	6.8	

2020年3月期連結業績予想(売上種別)

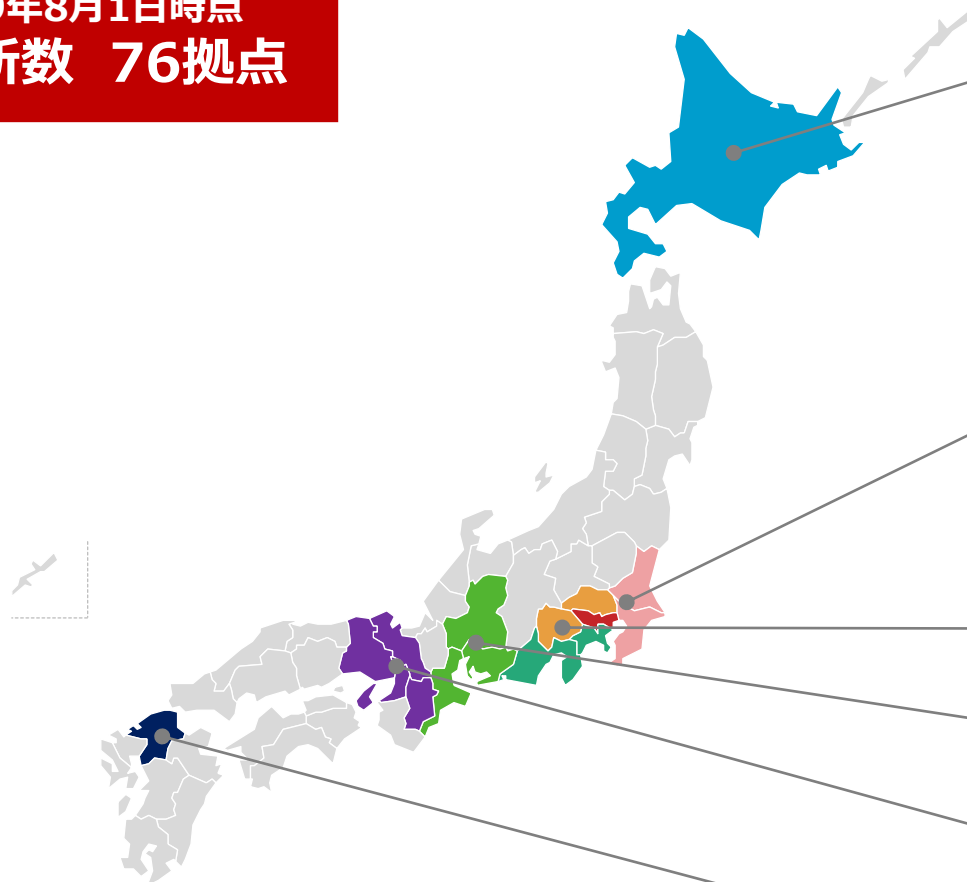
単位：百万円,%	上期			下期			通期		
	2019/3期	2020/3期予想		2019/3期	2020/3期予想		2019/3期	2020/3期予想	
	金額	金額	前年同期比	金額	金額	前年同期比	金額	金額	前期比
保守・保全業務	6,480	7,000	108.0	7,056	7,400	104.9	13,536	14,400	106.4
リニューアル業務	1,698	2,300	135.4	2,611	2,700	103.4	4,309	5,000	116.0
その他	21	300	1368.8	33	300	930.3	54	600	1107.8
合計	8,200	9,600	117.1	9,700	10,400	107.2	17,900	20,000	111.7



参考資料



2019年8月1日時点
営業所数 76拠点



JES 北海道
営業所数：9拠点

JES HD
営業所数：2拠点

JES 城南
営業所数：14拠点

JES 城西
営業所数：14拠点 (+1)※

ジャパンエレベーターパーツ
営業所数：8拠点 (+1)

JES 神奈川
営業所数：16拠点 (△1)※

JES 東海
営業所数：6拠点 (+2)

JES 関西
営業所数：6拠点 (+3)

JES 九州
営業所数：1拠点 (+1)

※ 所管変更
() 2018年3月末からの増減数

1 保守契約台数の増強

2 リニューアル(RN)事業の一層の強化

3 Lift SPOT事業の強化

4 利益率の向上

1. 関西・東海・九州地区への注力

(1) 関西

- 京都営業所の新設（4月）
⇒京都地区の営業強化
⇒協力会社からの移管を受け、順次スタート
- 茨木営業所の新設（6月）

(2) 東海

- 豊田営業所の新設（3月）
- 四日市営業所の新設（4月）

(3) 九州

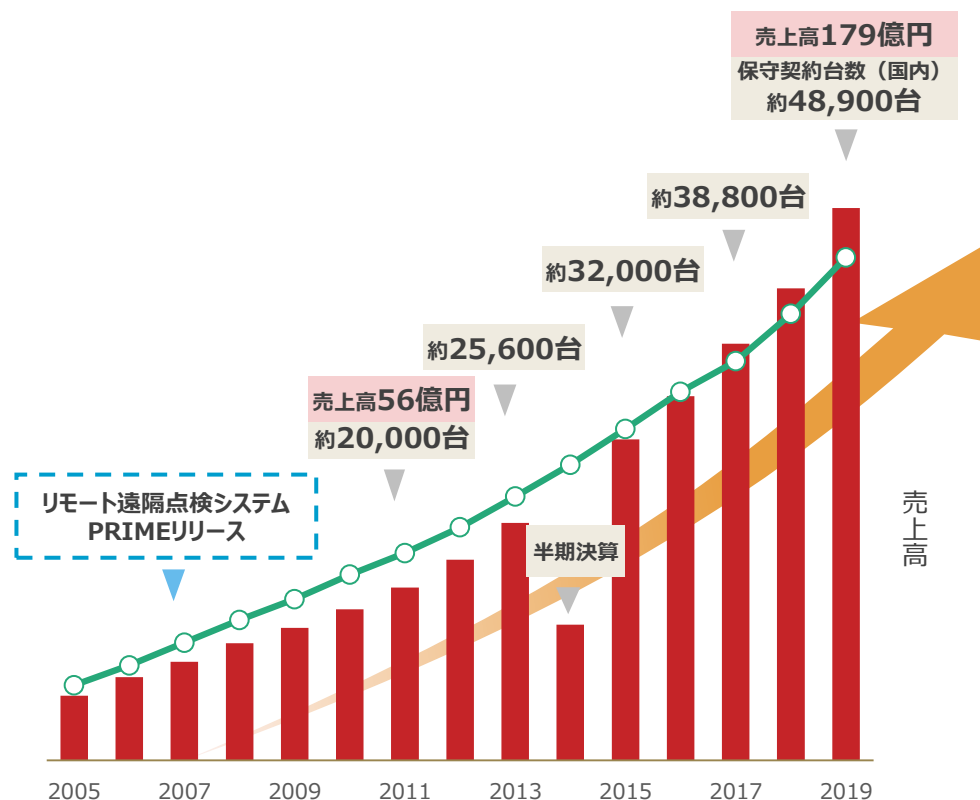
- ジャパンエレベーターサービス九州(株)の設立（4月）
⇒九州北部からスタート
⇒協力会社からの移管を受け、約140台からスタート

(4) 西日本

- 西日本パーツセンターの設置（6月）
⇒今後の西日本地区への注力を視野に入れ、サービス力の質的向上を目的とする

2. 首都圏のシェアアップ

ドミナント戦略の強化、及び友好的なM&Aによるシェアアップを図り、一層の生産性向上を図る



[参考]リニューアル(RN)事業の一層の強化

今後のリニューアル需要の高まりに対応するため、リニューアル事業を更に強化する

1.一括リニューアル

- 2019年3月期はJES Innovation Center(通称 JIC)での対応力強化が実った
- 消費税増税前の駆け込み需要もあり、台数ベースで前期の約22%増の完工に成功
- 制御盤の調達先を広げる等、原価の抑制を図り、コスト競争力の強化を図る
⇒大量発注による、原価の抑制
⇒海外有力メーカーも使用している高品質低価格の部品調達による、原価の抑制

2.Quick Renewal

- 2018年6月から2機種の販売を開始
- コンセプトの浸透は着実に進み、2019年3月期は台数ベースで一括リニューアルの約10%程度の成約に成功
- 今期も来るべき大量のリニューアルニーズに応えるため、Quick Renewal対応機種を増やし、リニューアルニーズの取り込みを図る

開発機種の世界規模

リリース時期	対象機種数	全国(推定) (台)
現状	4	50,000
2020/3月期末予想	4	40,000
計	8	90,000

* 2018年10月末の当社保守台数から推計

1. Lift SPOT業務の内製化

- エレベーターを情報媒体として捉え、カゴ内に防犯カメラ内蔵のサイネージ・スクリーンを無料で設置。
スクリーン上に動画広告等を配信、広告収入を得る。
⇒23区、及び大阪・名古屋などの一部大都市圏から設置を試行
- 2019年7月末時点の成約台数：約1,900台
⇒中期的に10,000台設置を目指す
- 今期中、早期に顔認識システムを搭載予定
⇒広告主に対するマーケティング支援機能の追加
⇒エレベーターユーザーに対する防犯面強化



LIFT
SPOT

「Lift SPOT」ロゴマーク

2. 設置台数の強化

- 当社の保守事業に付加価値を与えると共に新たな収益源を育成する目的で「メディア事業」を立ちあげ
⇒広告主への効果的なアプローチのため、まずは1,000台設置を目指す
⇒2020年3月末目標設置台数：3,000台



「Lift SPOT」設置例

[参考]利益率の向上

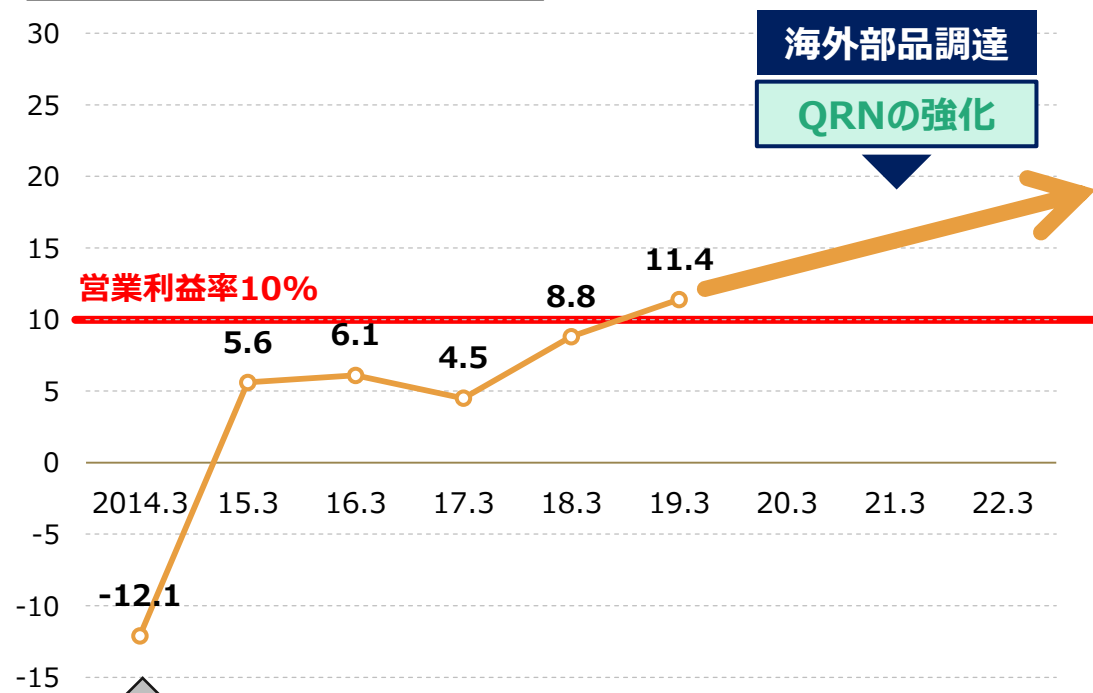
1. 部品の海外調達強化

- (1) JICでの徹底的な検証
- (2) 優良部品メーカーの発掘と関係強化

2. リペア品の積極的投入

3. Quick Renewal強化による原価及び、リニューアル工事のための外注費削減

当社営業利益率の推移(%)



営業利益率10%

海外部品調達

QRNの強化

主な調達強化部品



巻上機



制御盤

* イメージ写真

半期決算

上場準備開始

* 2014年3月期は決算期変更のため6カ月の変則決算

* 2015年3月期以降は連結決算

目的

1.Quick Renewalの開発スピードアップ

⇒ 売上と利益率向上

2.海外調達部品の検査力強化

⇒ 利益率向上

3.パーツセンターの一層の強化

(1)故障対応力強化

⇒ サービス力向上

(2)協力会社への支援

⇒ 売上向上

JIC新棟イメージ図

2020年10月竣工予定

	敷地面積 (m ²)	延床面積 (m ²)	規模
JIC	4,923.61	5,603.73	・3階建て ・約50mのテストタワー1本 ・テスト用エレベーター4台
JIC II 期	2,673.64	3,525.78	・3階建て ・約33mのテストタワー1本 ・テスト用エレベーター6台

【ご参考】

Quick Renewalと同様のコンセプトと考えられる商品のリリースが相次ぐ

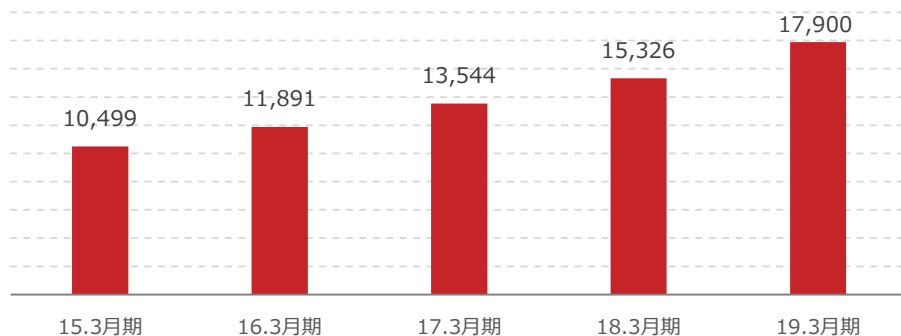
- ・三菱電機ビルテクノサービス Elemotion+[ZERO]
- ・東芝エレベータ 時短リニューアル
- ・日本オーチス・エレベータ ARISE MOD Live
(アライズ・モッド・ライブ)

※他独立系は現時点で同様の商品はリリースしていない

事業	国内		海外	
	現在	中長期	現在	中長期
保守・保全	進出地域のシェアアップによる保守契約台数の着実な増強	メーカー系保守会社に匹敵する規模を目指す	インド市場を開拓	東南アジア圏にも進出
リニューアル (R N)	一括RN → 市場拡大に応じて当社及び他社保守物件への対応強化 Quick RN (分割RN) → 対応可能機種数増加	顧客のニーズに合わせたきめ細かいRNサービスを提供	新設 ← リニューアル 新設 → 保守・保全 (EVのメーカーを問わない) リニューアル → 保守・保全 保守・保全 → リニューアル 新設・保守・リニューアルのバランスがとれた「グローバルスタンダード」を目指す	
新設	当面、国内での新設事業の計画無 (但しRNは実質的にはJES製のエレベーターの新設)			
新規 (メディア事業)	EVカゴ内でのメディア事業を立ち上げるとともに保守事業へのプラス効果も狙う (顔認識システムによるマーケティング支援機能も追加)		国内メディア事業の海外での展開も視野	

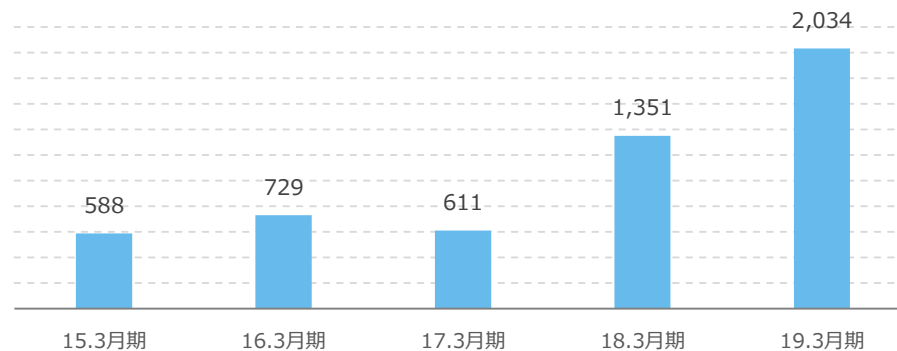
売上高

(百万円)



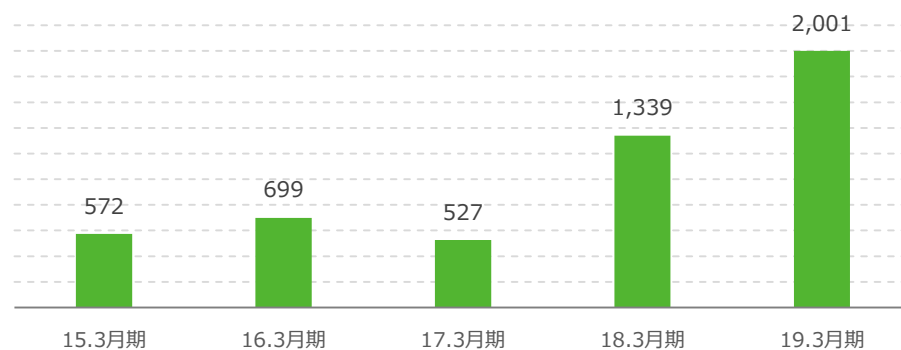
営業利益

(百万円)



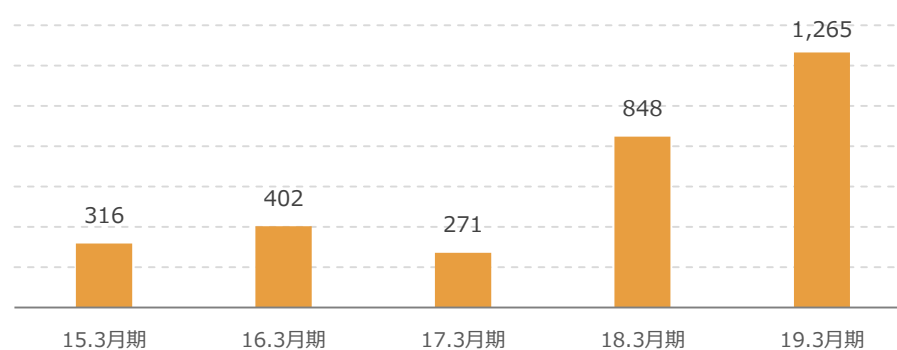
経常利益

(百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益

(百万円)

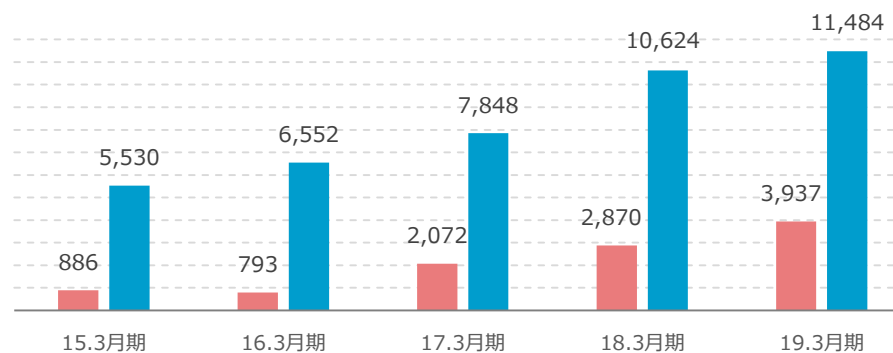


純資産額／総資産額

(百万円)

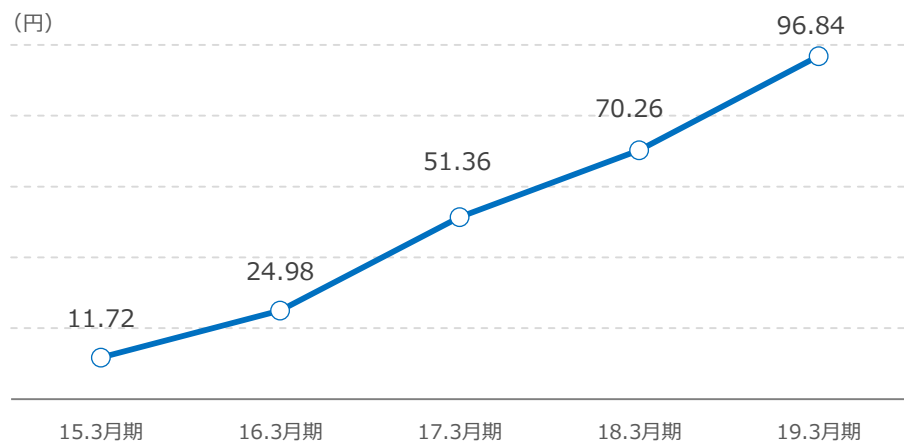
■ 純資産額

■ 総資産額



1株当たり純資産額

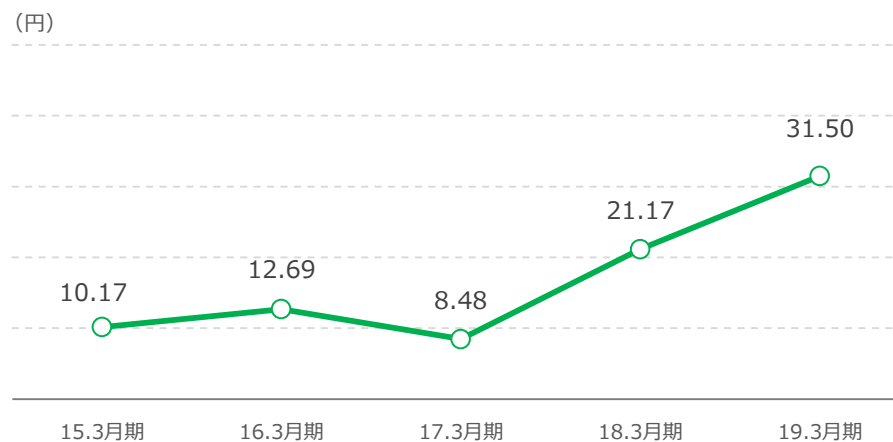
(円)



* 1 : 2の株式分割 (2018年10月1日効力発生)

1株当たり当期純利益金額

(円)



* 1 : 2の株式分割 (2018年10月1日効力発生)

免責事項

- この資料は皆様の参考に資するため、ジャパニエレベーターサービスホールディングス株式会社（以下、「当社」という。）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。